

1 経緯

○ 母子保健医療の向上のため、周産期母子医療センター及び周産期連携病院（以下「周産期センター等」という。）から母子のデータを収集しているが、収集する情報の内容や更なる活用等の検討のため、令和5年度に周産期医療情報の活用に関する検討会を実施

○: 会長 (五十音順)(敬称略)

|       |      |                |        |             |         |             |         |
|-------|------|----------------|--------|-------------|---------|-------------|---------|
| 検討会委員 | 産科   | 国立成育医療研究センター   | 梅原 永能  | 昭和大学病院      | 関沢 明彦 ○ | 杏林大学医学部付属病院 | 谷垣 伸治   |
|       |      | 東邦大学医療センター大森病院 | 早田 英二郎 | 東京都立墨東病院    | 兵藤 博信   | 昭和大学病院      | 松岡 隆    |
|       | 新生児科 | 国立成育医療研究センター   | 諫山 哲哉  | 帝京大学医学部附属病院 | 伊藤 直樹   | 慶應義塾大学病院    | 飛弾 麻里子  |
|       |      | 東邦大学医療センター大森病院 | 増本 健一  | 昭和大学病院      | 宮沢 篤生   | 東邦大学医学部     | 與田 仁志 ○ |

検討会及び東京都周産期医療協議会での意見に基づき、下記のとおり令和7年度から下記の事業を開始

2 事業内容

① 母子医療統計の改定・発行

臨床データを用いて、高年出産や産科合併症等リスクのある母とその子の状態の関係等が明らかとなる統計を作成し、母子保健医療に活用

② 周産期医療における臨床データの解析

周産期医療に関する現状把握等を行うため臨床データを解析し、結果については、東京都周産期医療協議会で報告（令和7年度の解析テーマ案：NICU等入院児・無痛分娩利用者に関する情報把握等）

※ 今後、周産期センター等が提出する臨床データは、日本産科婦人科学会へ提出している周産期データ、厚生労働省へ提出している産婦人科及び小児科・新生児科のDPCデータ、レセプトデータとする。